

様式（第5条関係）

会議録

会議の名称	平成29年度第1回行田市史編さん委員会	
開催日時	平成30年3月22日(木) 開会：14時00分・閉会：15時30分	
開催場所	行田市産業文化会館 3A会議室	
出席者(委員) 氏名	岸田昌久 津田馨 向井隆健 田村均 小島孝夫 根岸茂夫 田代脩 坂本和俊	
欠席者(委員) 氏名	劍持和夫	
事務局	文化財保護課長 中島洋一 市史編さん担当 篠田泰輔 市史編さん担当嘱託 久保康顕	
会議内容	別紙会議録のとおり	
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・報告資料 ・資料1~3 	
その他必要項		
会議録の定	確定年月日 平成 年 月 日	主催者記名押印

発言者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
岸田委員長	<p>*市民憲章唱和</p> <p>1. 開会</p> <p>2. 委嘱状交付</p> <p>3. あいさつ（中島文化財保護課課長）</p> <p>4. 委員長選出 継続で意見が一致し、岸田委員を選出。</p> <p>5. 議事 ○事務局から、報告・説明のための会議資料を配布。 ○岸田昌久委員長が議事を進行。 （委員長あいさつ）昨日は雪が降りましたが、本日はお集まりいただき感謝申し上げます。4月末に日本遺産に認定され喜ばしかったが、その喜びも冷めやらぬうちに陸王のドラマが放映されました。この土地の歴史・ストーリーの価値が認められた結果ですが、こうした価値を見出す土台となっているのが市史編さん事業であります。そして行田の歴史の本当の土台となるのが、一番古い時代を対象とする考古編の刊行であると思います。討議をよろしくお願ひします。</p>
事務局	<p>(1) 市史編さん事業の経過報告 1 事務局の活動について</p> <p>○事務局より、資料にもとづき報告。 ①市史普及版『行田の歴史』の配布・販売状況について ②資料編『考古』の編さんへ向けた業務について ③資料編『考古』に伴う委託事業について ④これまでの編さん業務の整理・管理について ⑤資料収集について ⑥社会教育関係 ⑦博物館との連携関係 ⑧その他</p>
事務局	<p>補足説明 ・市史在庫は大きなスペースを要するとともに、破損・汚損を防</p>

	<p>ぐために温度・湿度や場所について注意を払わなくてはならない。販売に意を注ぐとともに今後は保管についての検討もおこなっていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在庫に関して、普及版については子供の夏休みの自由研究の参考にするためか、夏の販売数が伸びるという特徴があった。 ・下中条の家の文書は、現在も下中条で伝承される《ささら》の近世の様子が記された史料が含まれている。さらについての近世史料はそうあるものではなく貴重なので、保管・保存に関し所蔵者との協議につなげたい。
事務局	<p>2 専門部会（考古）の活動について</p> <p>○事務局より、資料にもとづき報告。 今年度は、7月25日、9月16日に部会を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月部会では、考古編の全体構成や内容、また今後の作業方針や作業内容について検討をおこなった。 ・9月部会では、専門的見地からの討議、情報交換をおこなった。その後、出土遺物および整理保管状況の実見をおこない、今後の研究・調査・執筆作業の方針・方法等について意見交換した。
岸田委員長	<p>以上、編さん事業の経過について報告がありました。ご質問を願います。</p>
坂本委員	<p>私からも補足を。第2回考古部会の時に清水氏による研究発表があったが、清水委員は行田周辺の地質に大変詳しい方で、そこで河川の流路変遷を中心に話をしてもらった。生出塚埴輪窯から古墳へ埴輪をどう運んだのか、通船堀の存在が考えられなくもないのだが、運び方等についての具体的な検討はなされていない。清水氏の発表で、この問題へ地質からのアプローチが有用な視点であることを確認することができた。</p>
岸田委員長	<p>古墳が土の下にあるという土地柄で、調査も大変ですが、刊行へ向けてよろしくお願いしたいと思います。そのほかご質問は。</p>
岸田委員長	<p>それでは私から。 社会教育関係（⑥）について、せっかく公民館等で話をするのだから、市史のPRに努めてほしい。あなたとこの本はこういう関係がある、と具体的に教えてあげて、「私とこの本は関係があるのだ」、とわからないと、なかなか買ってはくれない。講座で、具体</p>

	<p>的に説明して、おすすめしてほしい。</p> <p>博物館との連携（⑦）について、具体的にはどのようなものを収集したのか。</p>
事務局	<p>高橋家からは、天皇の御影を保管する奉安庫。小学校の関係者であり、小学校のものが伝來したとみられる。戦前期の学校教育の実態を示す資料。小宮家からは、古文書および忍城城門に使用されていたと推定される城門礎石。当家は江戸時代には名主家。門礎石は廃城でほぼ実体が失われた忍城の様子を伝える遺品となる。日向家からは、幕末に忍城主の松平家から売却されたと伝わる長持ち。当家は忍藩領平戸村名主家。</p>
岸田委員長	<p>小宮家は、城南地区で古い家屋を残していて、最近広い面積の宅地分譲が進みつつある場所であろうか。</p>
事務局	<p>そうだ。旧家の小宮家で、すでに居所を移していて、最近所有地整理をして売却し、開発となった。</p>
岸田委員長	<p>そうですか。いろいろな資料があるかと思いますが、さらには史料も含めて、地元の歴史や文化の理解するためによい資料は、積極的に公開へ向けた検討をしてください。</p> <p>さて、以上の経過報告について、承認はいかがでしょうか。</p>
出席委員	<p>【全委員承認】</p>
岸田委員長	<p>それでは市史編さん事業の経過が、了承されました。</p>
	<p>（2）資料編『考古』の刊行について</p> <p>○事務局より、資料にもとづき説明。</p> <p>①専門部会の体制として、新たに清水康守氏を地質学分野の専門調査員に委嘱することとした。</p> <p>②体裁・内容には、一般へ向けた見やすさを意識したい。版型は、既刊の行田市史は基本的にA5判だが、大きめのB5判を考えている。これは民俗資料集や普及版で採用した大きさでもある。またカラー一頁を多くとりたい。</p> <p>「資料編」であるので、あくまでも研究の基礎資料を内容とするが、通史や普及版を補完する目的も合わせ持たせたい。このことから一般市民の利用も考慮してカラー一頁の導入と内容の適正化に努める。内容の適正化については、特色が出にくい小規模な遺</p>

	<p>跡の収録を減らし、その分、特色ある遺跡の記述分量を増やし詳述する方向を考えている。</p>
岸田委員長	<p>ありがとうございました。大変な仕事だと思います。委員から、補足はございませんか。</p>
坂本委員	<p>考古学分野における行田市の目玉といえば、やはり埼玉古墳群となる。これについては、資料配置のしかたを含めて古墳群の形成背景がわかる内容にしたい。一見、古墳がいきなり現れるように見えるのだが、周辺の集落、周溝墓の実体をしっかりとおさえて埼玉古墳群の形成背景や過程を詳述しようと考えている。</p> <p>また、詳しく収録する遺跡の数は絞らなくてはならないわけだが、この点については担当者と検討してゆく。</p>
岸田委員長	<p>古文書のない時代を対象とするので、大変な作業だと思います。何かご質問はないでしょうか。</p> <p>さきたま古墳群では以前から火まつりが続けられていて、今では大きなお祭りになりました。その稲荷山古墳はかつて、土が採られたことから変形していて「半かけ山」と言っていたことを思い出します。この古墳も内容となるわけですね。</p> <p>いかがでしょうか。資料編『考古』の刊行について、こうした方向でよろしいでしょうか。</p>
出席委員	<p>【全委員承認】</p>
岸田委員長	<p>それでは、考古資料編の刊行について、了承されました。</p>
	<p>(3) 今後の市史編さん事業について</p>
事務局	<p>○事務局より、資料にもとづき説明。</p> <p>①考古部会の活動 掲載する遺跡と遺物の選定について、遺跡選定は基本的に部会で進め、掲載遺物は個々の専門調査員で決定する。</p> <p>②考古資料編の刊行スケジュール 会議資料のとおり</p>
岸田委員長	<p>以上、説明がありましたが、坂本先生、ご意見・補足を。</p>
坂本委員	<p>これから、遺物の図をとる作業が多くなる。専門の知識をもつ</p>

	<p>人に見てもらわないといけない。また、これまでの報告や知見も、必要に応じて見直さなければならない。</p> <p>例えば、漆の付着した土器が存在している。朝鮮半島から鉄器を得るのに、漆の交易があってもおかしくはなく、土器が容器として使用されていた可能性がある。漆を採取した木の遺物も出土していて、漆の利用・流通が思いのほか多いことが想定される。</p> <p>また、鉄滓や金箸が出土する遺跡があり、鍛冶の存在が想定されるわけだが、報告書ベースでは鍛冶との関係が明らかになっていない例もある。</p> <p>こういったことは、専門家が見ないとだめだし、また、細かな遺物を見逃さないようにしなければならない。こうした視点にたち、これまでの経験・知識に基づきつつも、それらを常に見直し新たな視点を想像する態度をもちたいと思う。</p>
岸田委員長	漆への着目、貴重であろうと思います。
坂本委員	その点、漆器をもっと見ないといけないわけだが、要するに遺物として残りづらい物へ注意への注意が必要だ。竹製の高壺もある。湿地帯の遺跡では、土器ばかりを見ていてはだめであろう。木器にも注意を注ぎたい。見い出しづらいものへ注意を払おうと考えている。
岸田委員長	田代先生、どうぞ
田代委員	この資料編を作つて、本編（通史）はどうするのか。
事務局	今回の市史編さん事業においては、考古編の通史を別途作る計画はない。そのかわり、この資料編には、各時代の概説・総論を各々の冒頭において通史的役割をもたせ、一般の方々の理解を助けたいと考えている。
田代委員	「資料編」という名称がふさわしいのだろうか。資料を載せつつも、時代を追った解説も盛り込まれることになる。通史のようなものが併記されるわけであり、単なる「資料編」という名称には違和感がある。
事務局	通史的要素を含ませるのだが、あくまでも全体の基本的体裁は資料集のかたちとなる。また考古学の分野では、文献資料のある時代のように歴史を描くまでにはいかない面もある。
小島委員	いまこの時点では、目次が出来上がっている段階にない。内容を反映する目次が具体的に出来上がったところで、それをふまえ

	て名称を決めればよいのではないか。
田代委員	今の時点では、仮称ということでよいか。
事務局	基本的な目次が出たところで名称を考えるという方針となれば、今の時点では仮称の扱いでかまわない。
坂本委員	この巻は、あくまでも資料として個々の遺跡を取り上げるのが基本で、それを変えることはない。基本的な性格は、やはり資料編ということになる。
田代委員	具体的な目次が出た段階で名称について再検討することとし、今の段階では仮称ということでおろしいか。
岸田委員長	その方向でいきましょう。
事務局	それでは、名称については、目次をふまえて再度、この会議で議論いただきたいと思います。
岸田委員長	ほかになにかございますか。
向井委員	行田市は、日本のなかで類例のないオリジナルの地域といえるのか。
事務局	オリジナルであろう。だから普通の資料編ひな型が通じない。本資料編は埼玉古墳群が大きな目玉になるが、そうしたオリジナルを中心にしつつもバランスを取り、組み立てていきたい。
田代委員	地域の特色を浮き上がらせるためにも、スポットをあてる部分があつてよいと考える。
向井委員	普及版をもっとPRすべきではないか。
事務局	種々の方策のなかで、一般書店での販売は実行が難しい現状にある。
岸田委員長	今後さらに普及版の活用に意を注いでいただければと思います。
岸田委員長	ほかにご質問はございませんか。 埼玉古墳群といった全国的に著名な遺跡を擁し、検討・執筆作業には時間もかかり大変なものがありますが、いっぱい材料はあ

	<p>りますので、うまく構成を進めて刊行につなげていってほしいと思います。皆さんのお力のうえに刊行がありますので、いろいろ意見を取り入れて考えていくべきだと思います。</p> <p>市史編さん最後となる刊行。力を結集してほしい。</p> <p>皆さんのお力を借り、仕上げてほしいと思います。議事をお返します。</p> <p>○事務局より議事の終了宣言。</p> <p>6．閉会（中島文化財保護課長）</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
事務局	